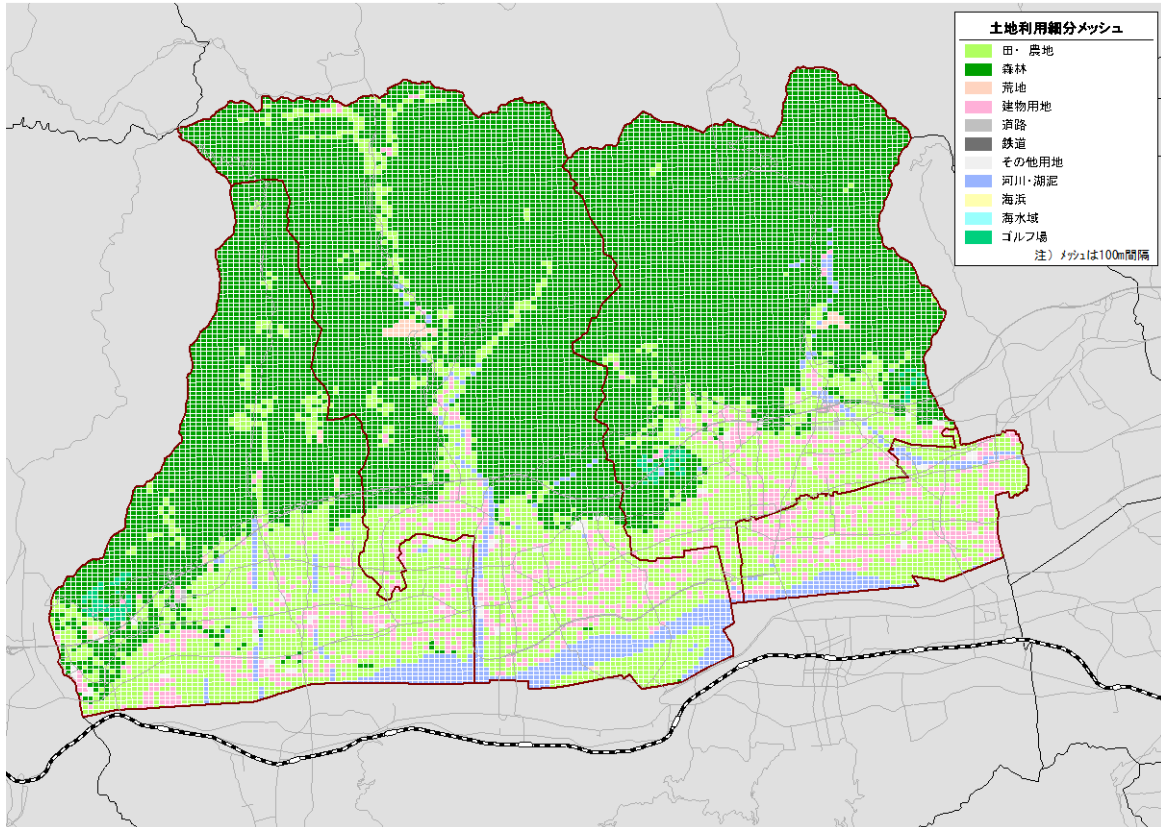


2 阿波市における地域の現状と課題

2.1 阿波市の概況

1) 地理的条件と人口の分布

- 阿波市は、面積 191.11k m²、人口 372 百人となっている。
- 土地利用は、市域の 1/2 以上が森林であり、谷筋には集落が散在している。
- 阿波市の可住地面積は、市面積の 47.0%を占めている。
- 市民は、徳島自動車道と吉野川の間の東西約 20km の可住地に面的に居住している。



2-1 土地利用

出典) 国土数値情報

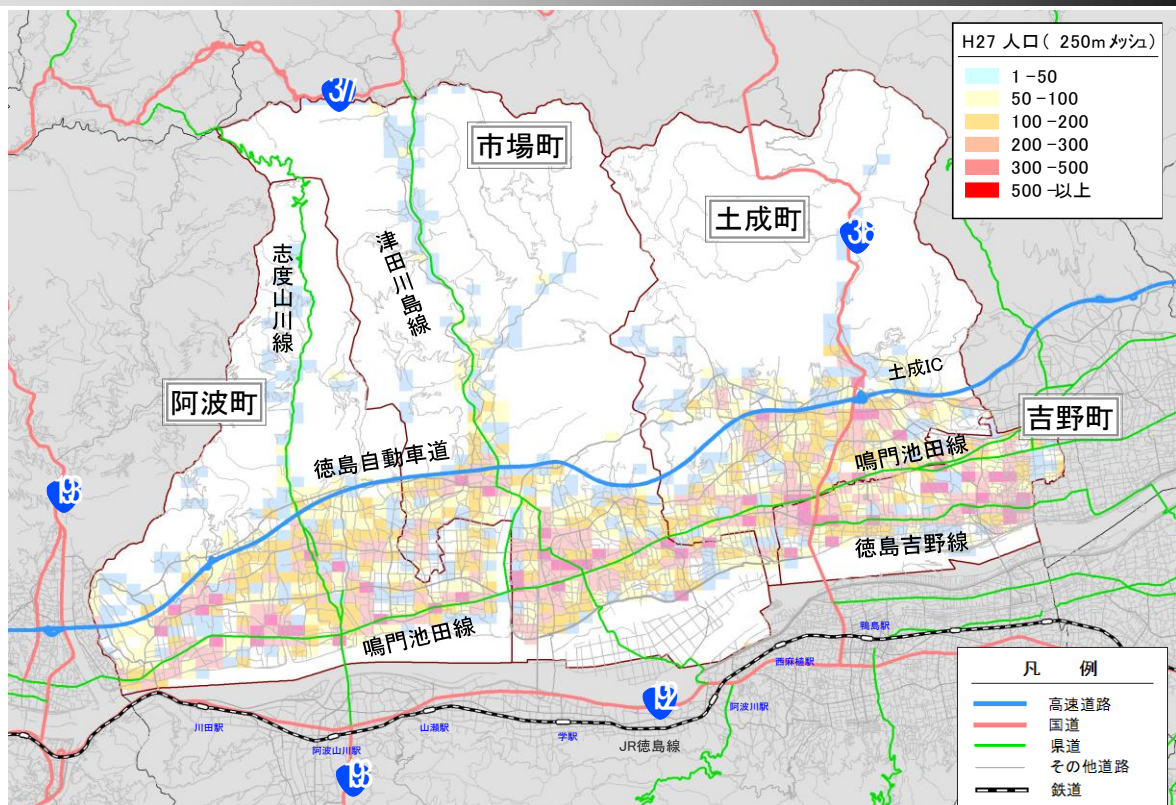


図 2-2 阿波市の人口の分布

出典) ベース図: 国土数値情報、250m メッシュ人口: 平成 27 年 国勢調査

表 2-1 阿波市の人口と面積(平成 27 年)

人口	37,202人
面積	191.11km ²
可住地面積	89.78km ²
市面積に対する割合	47.0%

出典) 人口: 平成 27 年国勢調査面積・可住地面積: 阿波市 HP

2) 人口の推移

- 阿波市の人口は減少傾向にあり、平成 52 年には、平成 27 年の 372 百人から約 3 割減少する。
- 阿波市の年齢階層は、少子高齢化が進み、平成 42 年には、高齢化率は 4 割を超え、年少人口率は 1 割を下回る。

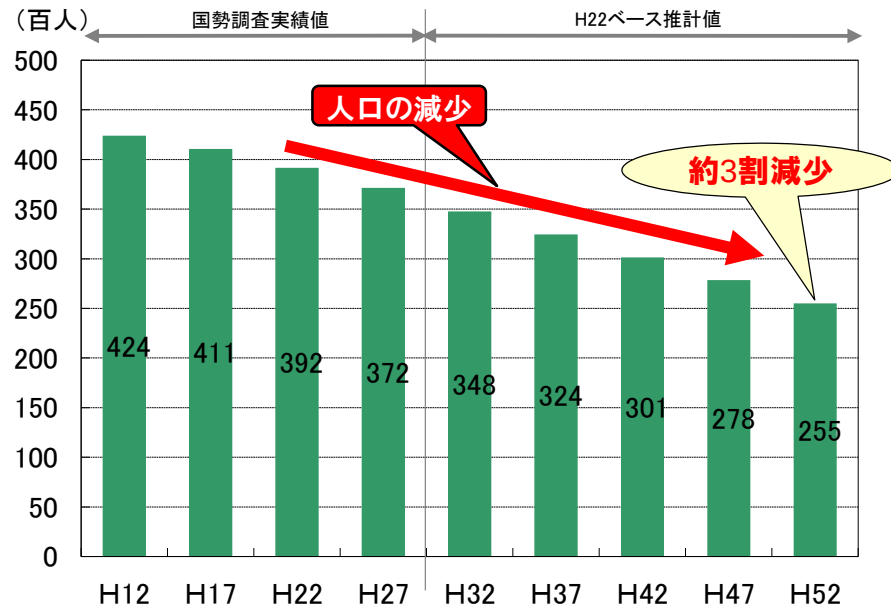
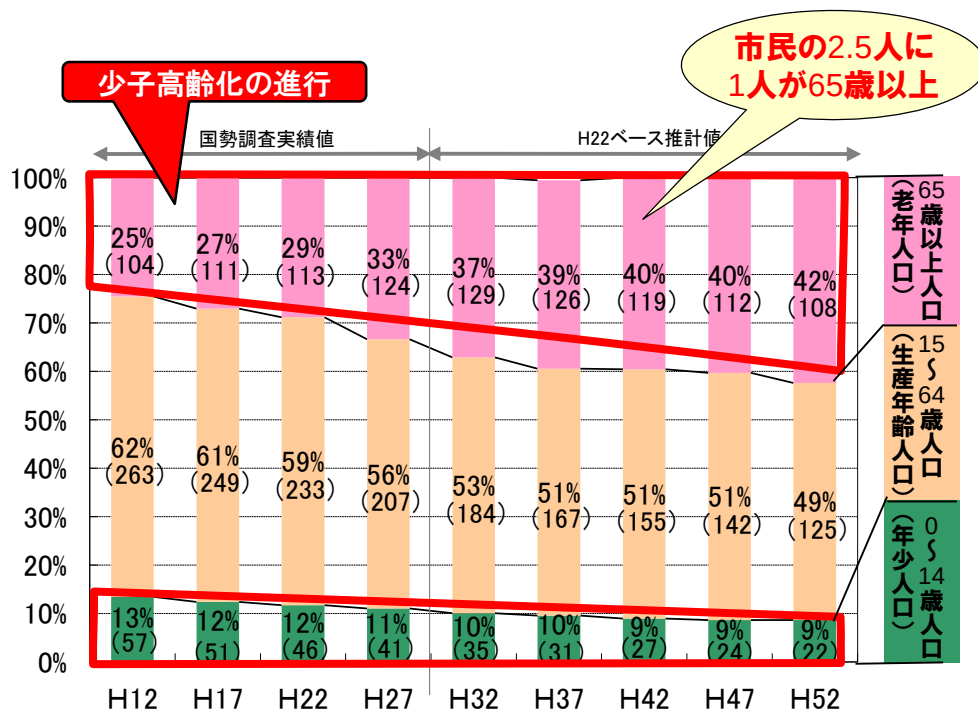


図 2-3 総人口の推移



※不明は除く

図 2-4 年齢別階層の割合

出典) 平成 2 年～平成 27 年：国勢調査、平成 32 年～平成 52 年：国立社会保障・人口問題研究所

- 町の人口は、阿波町が最も多く 117 百人で市全体の約 3 割を占め、次いで市場町 101 百人（市全体の 27%）となっている。
- 人口の推移は、土成町以外は平成 12 年から 10%以上減少している。
- 老年人口は、吉野川～徳島自動車道間の市街地に広範囲に分布しており、市場町中心等、町中心地で多い傾向にある。
- 町の年齢階層別人口（平成 27 年）をみると、吉野町の高齢化率は、他町に比べ低いものの、30%を超えている(32%)状況にある。
- また、今後、高齢化率は、いずれの町でも 30%程度で推移するものと予測されている。

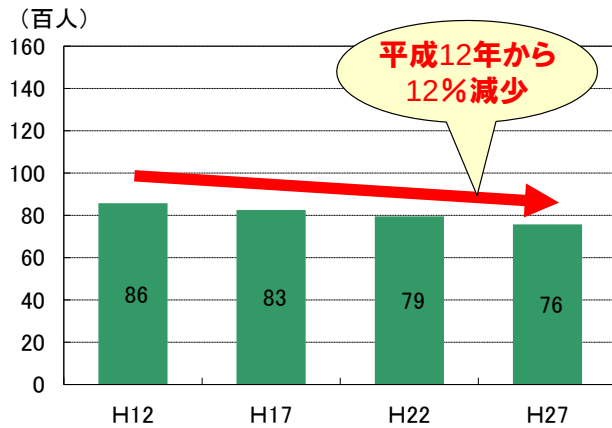


図 2-5 吉野町の人口推移

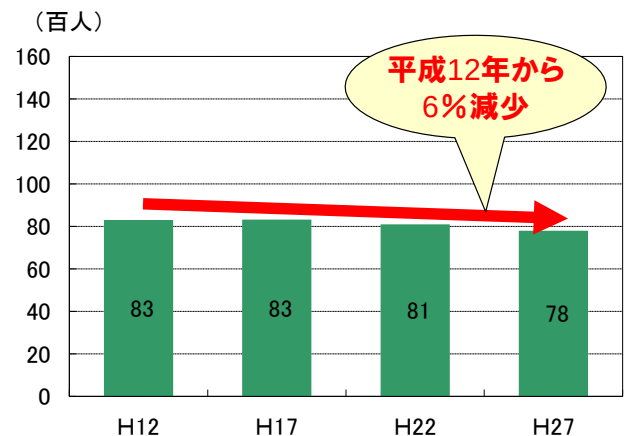


図 2-6 土成町の人口推移

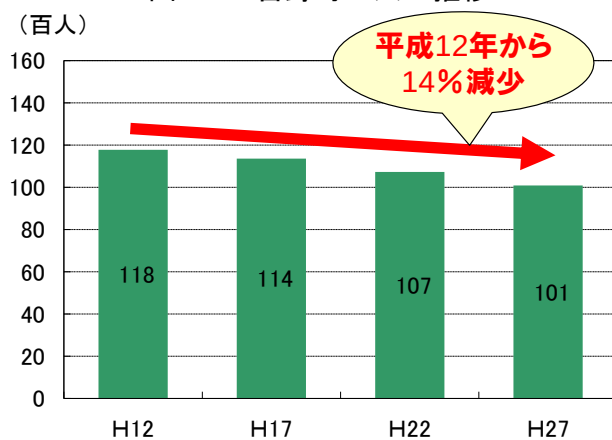


図 2-7 市場町の人口推移

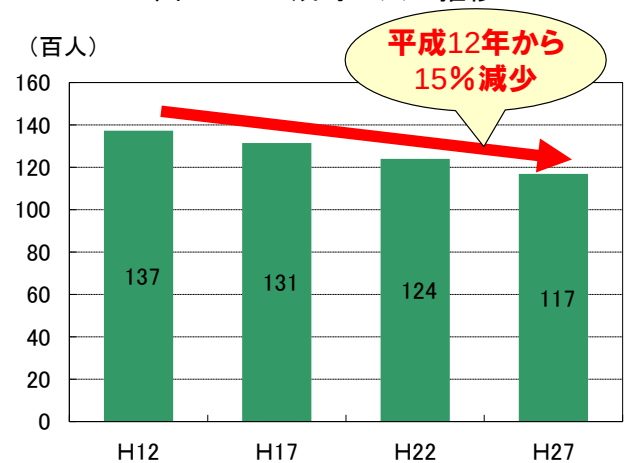


図 2-8 阿波町の人口推移

出典) 平成 2 年～平成 27 年：国勢調査

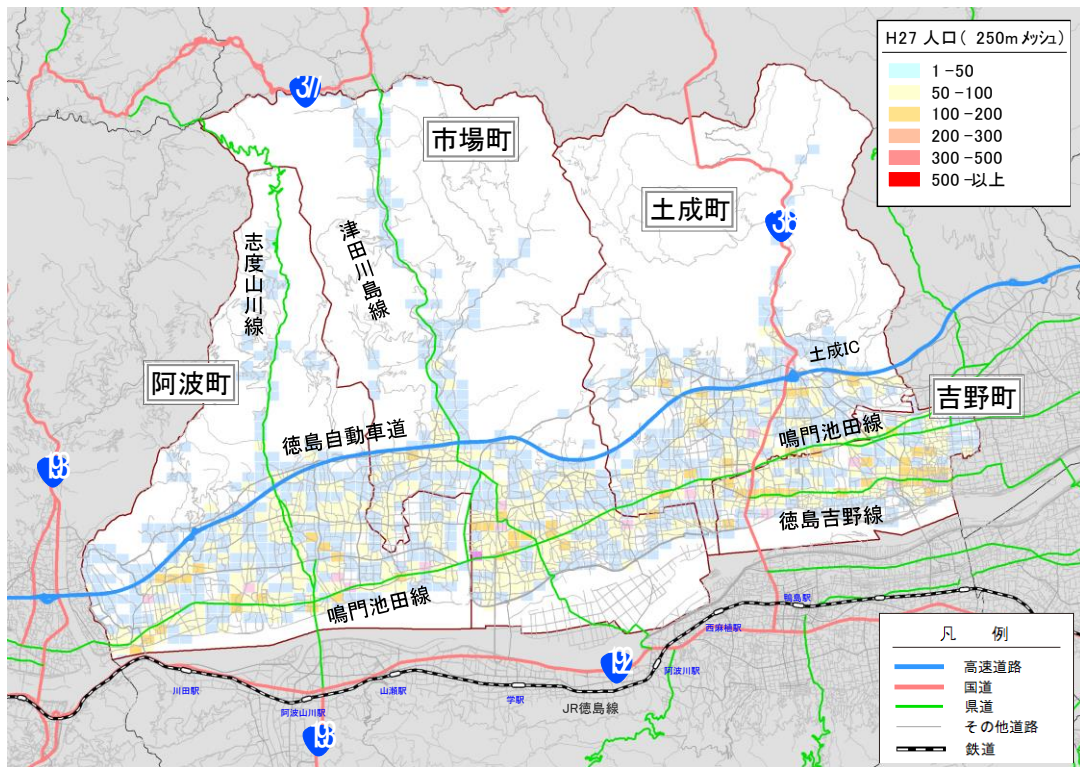


図 2-9 老年人口の分布図

出典) ベース図：国土数値情報、老年人口：平成 27 年国勢調査

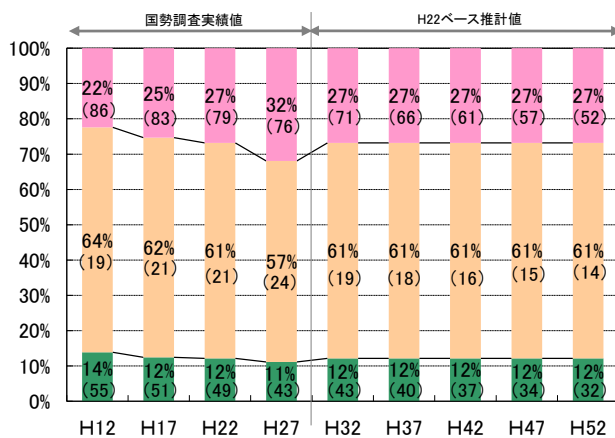


図 2-10 吉野町の年齢別階層の割合

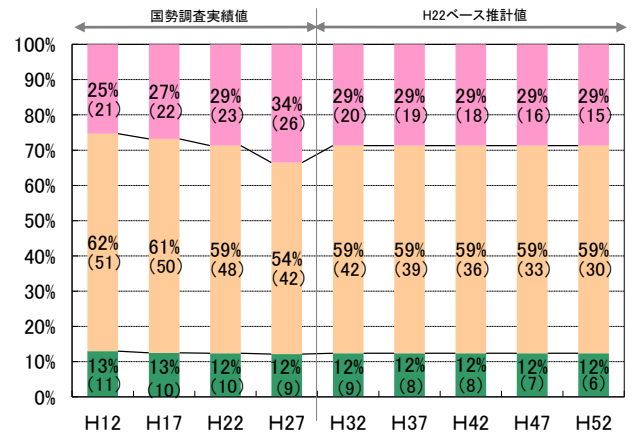


図 2-11 土成町の年齢別階層の割合

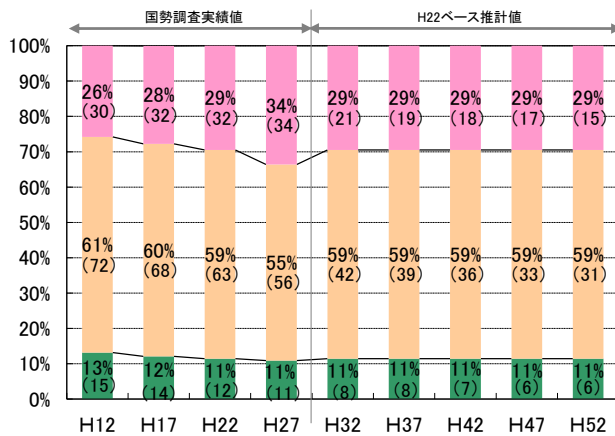


図 2-12 市場町の年齢別階層の割合

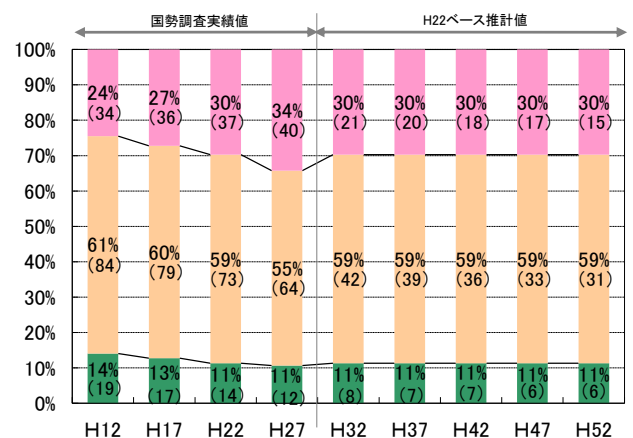


図 2-13 阿波町の年齢別階層の割合

出典) 平成 2 年～平成 27 年：国勢調査、平成 32 年～平成 52 年：国立社会保障・人口問題研究所

3) 流入・流出口(通勤・通学の流動)

a) 通勤

- 通勤流動は、他地域からは隣接する吉野川市、徳島東北部、美馬市からの流動が多く、阿波市からは徳島東南部（徳島市含む）、隣接する吉野川市、徳島東北部、美馬市への流動が多い。
- 移動手段は、自動車が92.3%を占めており、バスは1%にも満たない状況にある。

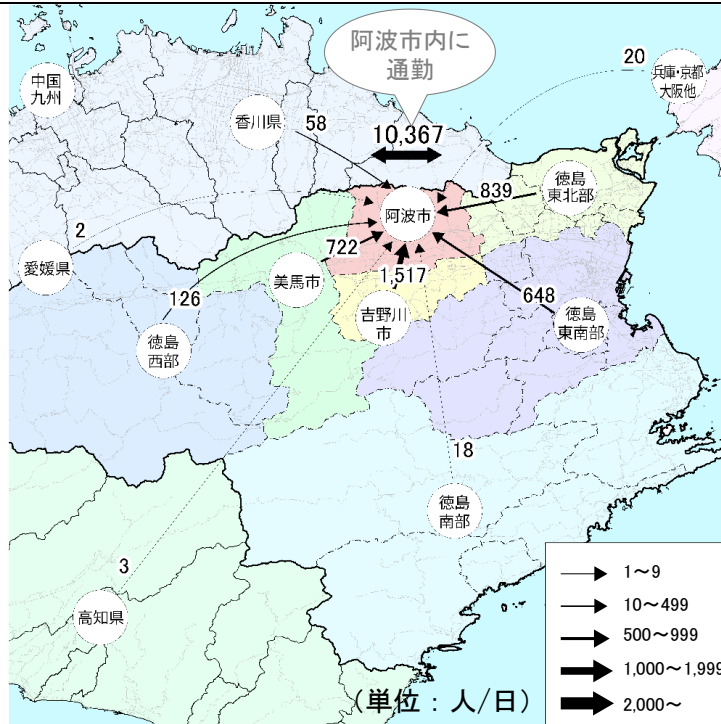


図2-14 通勤(他地域から阿波市へ)の流動図(平成27年)

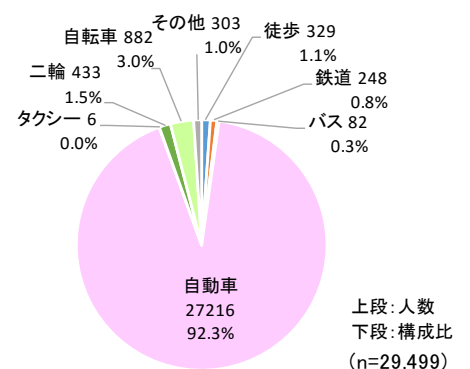


図 2-15 通勤(阿波市から他地域へ)の流動図(平成27年)

単位(人/日)	流入	流出
合 計	14,320	17,426
阿波市内々	10,367	10,367
阿波市内外	3,953	7,059
吉野川市	1,517	1,715
美馬市	722	946
徳島東北部	839	1,535
徳島東南部	648	2,201
徳島南部	18	43
徳島西部	126	238
香川県	58	316
愛媛県	2	7
その他	23	58

エリア

徳島東北部・・・鳴門市、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町
 徳島東南部・・・徳島市、小松島市、勝浦町、上勝町、佐那河内村、石井町、神山町
 徳島南部・・・阿南市、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町
 徳島西部・・・三好市、つるぎ町、東みよし町

図 2-16 通勤の移動手段
(平成22年)

出典) ベース図：国土数値情報、人口流動：平成27年 国勢調査

b) 通学

- 通学流動は、他地域からは隣接する吉野川市、徳島東北部からの流動が多く、阿波市からは徳島東南部（徳島市含む）、隣接する吉野川市、美馬市への流動が多い。
- 移動手段は、自転車が 60.6%、自動車 that 18.8%を占め、バスは 1.1%となっている。

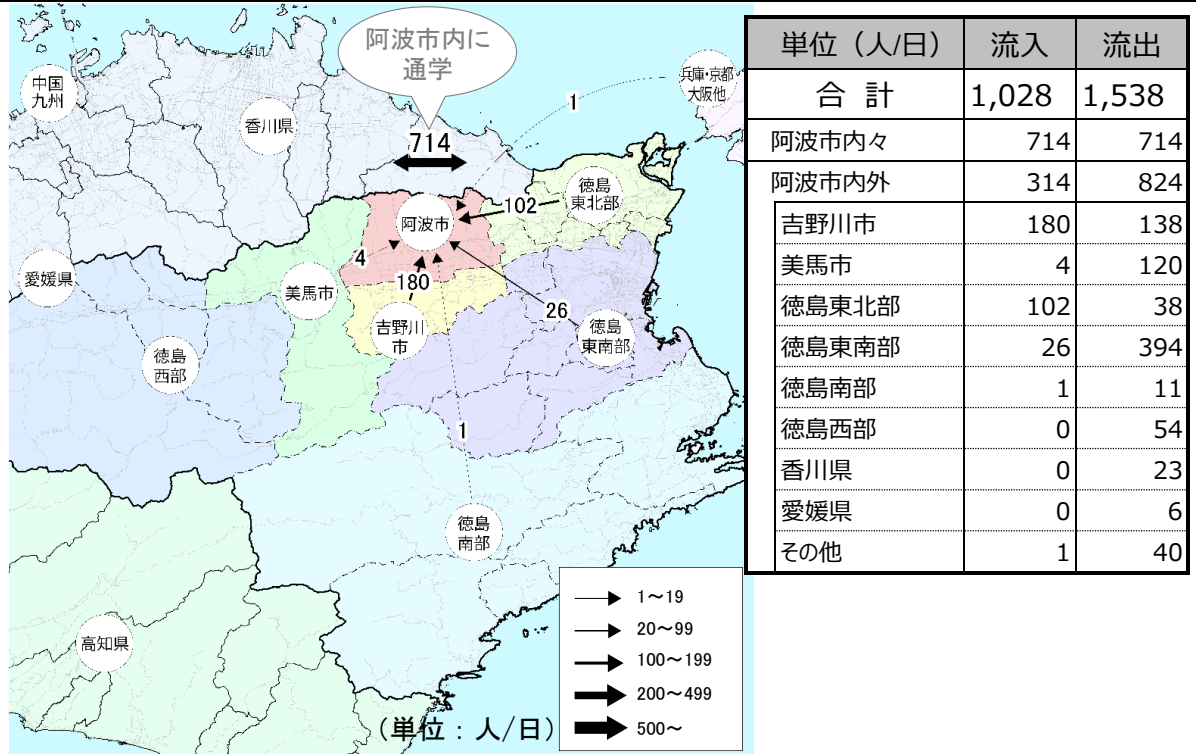


図 2-17 通学(他地域から阿波市へ)の流動図(平成 27 年)

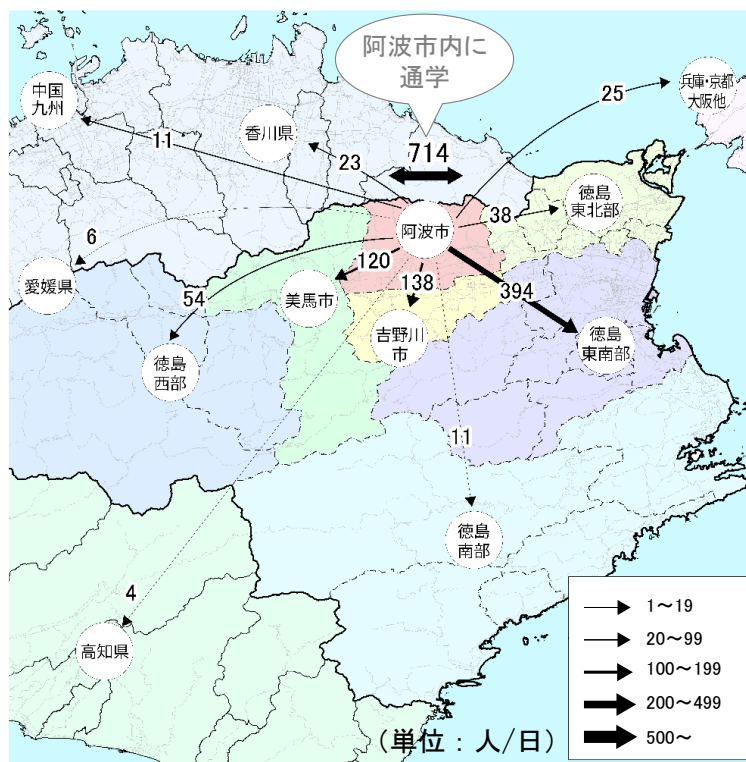
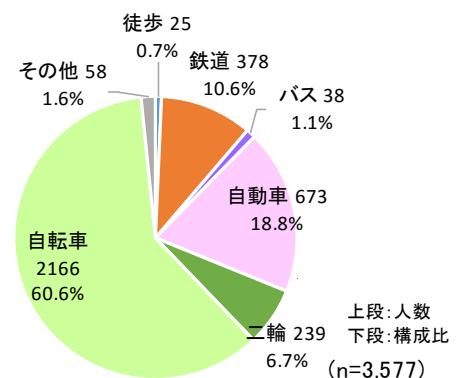


図 2-18 通学(阿波市から他地域へ)の流動図(平成 27 年)

図 2-19 通学の移動手段
(平成 22 年)

出典) ベース図：国土数値情報、人口流動：平成 27 年 国勢調査

4) 主な外出先となる施設の分布

- 移動の目的地となる病院、商業施設は鳴門池田線沿線に集中して分布している。

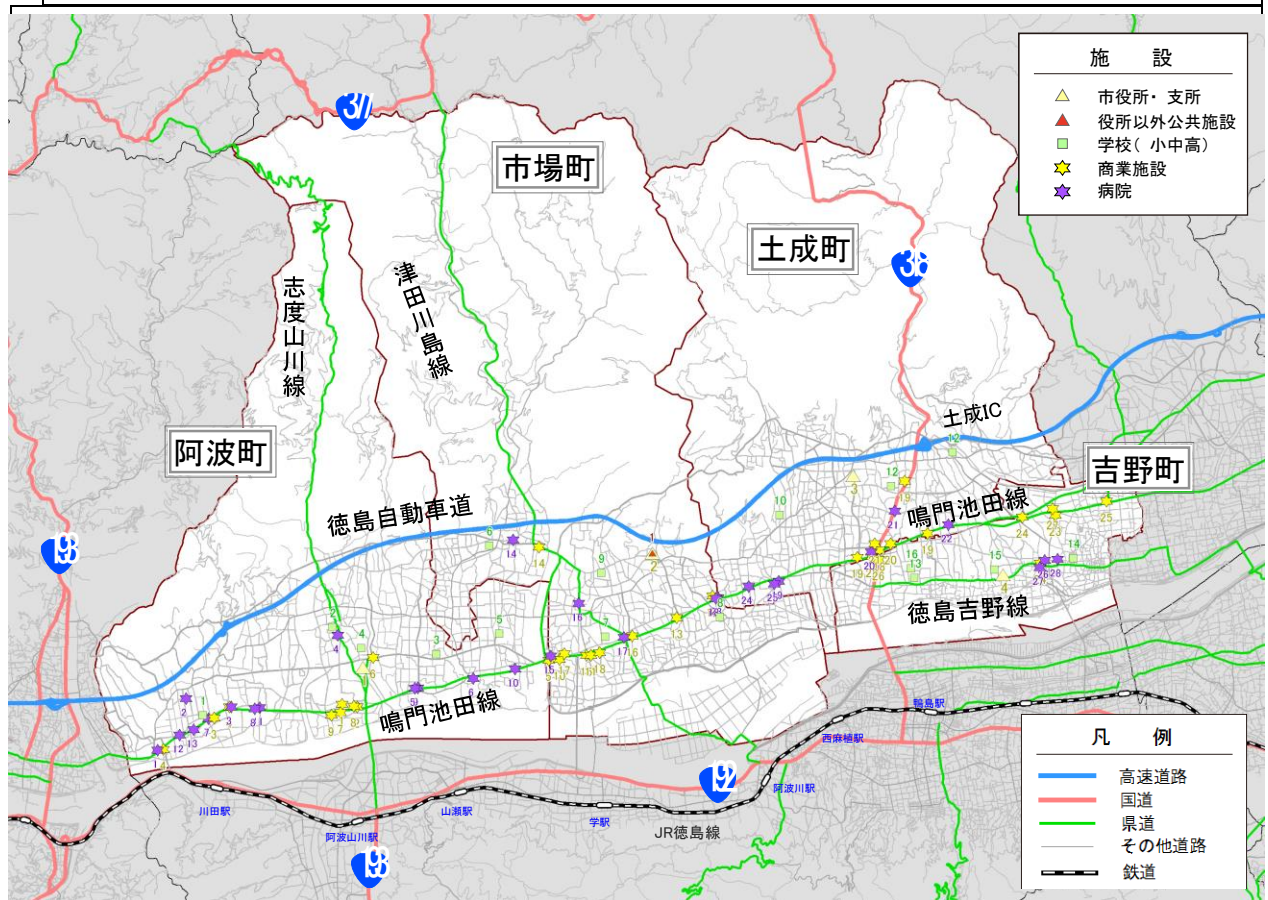


図 2-20 主な外出先となる施設の分布

出典) ベース図：国土数値情報

表 2-2 主な外出先となる施設の一覧

◆商業施設

NO	名称	所在
1	アワーズ	阿波町
2	デイリーマート	
3	JA 阿波町土柱の里	
4	ファミリーマート(阿波町内)	
5	ローソン(阿波町内)	
6	ミニストップ(阿波町内)	
7	コスモス薬品(阿波町内)	
8	ドラッグセイムス阿波店	
9	コメリハード&グリーン阿波店	
10	キョーエイ市場店	市場町
11	マルナカ市場店	
12	JA 夢市場	
13	ファミリーマート(市場町内)	
14	ミニストップ(市場町内)	
15	セブンイレブン(市場町内)	
16	コスモス薬品(市場町内)	
17	コメリハード&グリーン市場店	

NO	名称	所在
18	JA グリーンどなりマルシェ	土成町
19	ファミリーマート(土成町内)	
20	セブンイレブン(土成町内)	
21	コメリハード&グリーン土成店	
22	マルナカ柿原店	
23	マルナカ吉野店	吉野町
24	ファミリーマート(吉野町内)	
25	ローソン(吉野町内)	
26	くすりのレディ阿波吉野店	
27	コーナン吉野店	

◆病院

NO	名称	所在
1	重清内科外科	阿波町
2	森下医院	
3	おおつか内科	
4	西川内科クリニック	
5	村上医院	
6	林内科医院	
7	大塚歯科医院(阿波地区)	
8	西村歯科医院	
9	安田歯科	
10	根東歯科医院	
11	松本眼科	
12	大崎皮膚科医院	
13	さかまき整形外科	

NO	名称	所在
14	太田診療所	市場町
15	阿波病院	
16	近藤医院	
17	赤池循環器消化器内科	
18	大久保内科	土成町
19	乾内科外科	
20	大野病院	
21	御所診療所	
22	金塚内科	
23	岩脇歯科医院	
24	坂東眼科	
25	大塚歯科医院(土成地区)	
26	大久保医院	吉野町
27	福島歯科医院	
28	大串医院	

◆公共施設

(役所)

NO	名称	所在
1	阿波支所	阿波町
2	阿波市役所	市場町

NO	名称	所在
3	土成支所	土成町
4	吉野支所	吉野町

(学校)

NO	名称	所在
1	林小学校	阿波町
2	伊沢小学校	
3	久勝小学校	
4	阿波中学校	
5	阿波西高等学校	
6	大俣小学校	市場町
7	市場小学校	
8	八幡小学校	
9	市場中学校	

NO	名称	所在
10	土成小学校	土成町
11	御所小学校	
12	土成中学校	
13	柿原小学校	吉野町
14	一条小学校	
15	吉野中学校	
16	阿波高等学校	

(その他施設)

NO	名称	所在
1	阿波市交流防災拠点施設(アエルワ)	市場町

注) 上表のうち、商業施設、病院、その他施設については、今年度を実施した「高齢者アンケート調査」および「路線バス沿線住民アンケート調査」の外出先(施設)に関わる質問において、5人以上の回答があった施設を抽出、表示している。

2.2 阿波市の公共交通の現状と課題

1) 公共交通ネットワークと空白地域の存在

- 阿波市は市内に鉄道駅がなく、路線バスは一部の地域を運行するのみとなっている。
- 路線バスの停留所へ徒歩でアクセス可能と想定される半径 500mの圏域と人口分布を重ね合わせると、多くの地域及び人口が圏域外の公共交通空白地域であり、この地域に居住している人は路線バスを利用できていないと考えられる。

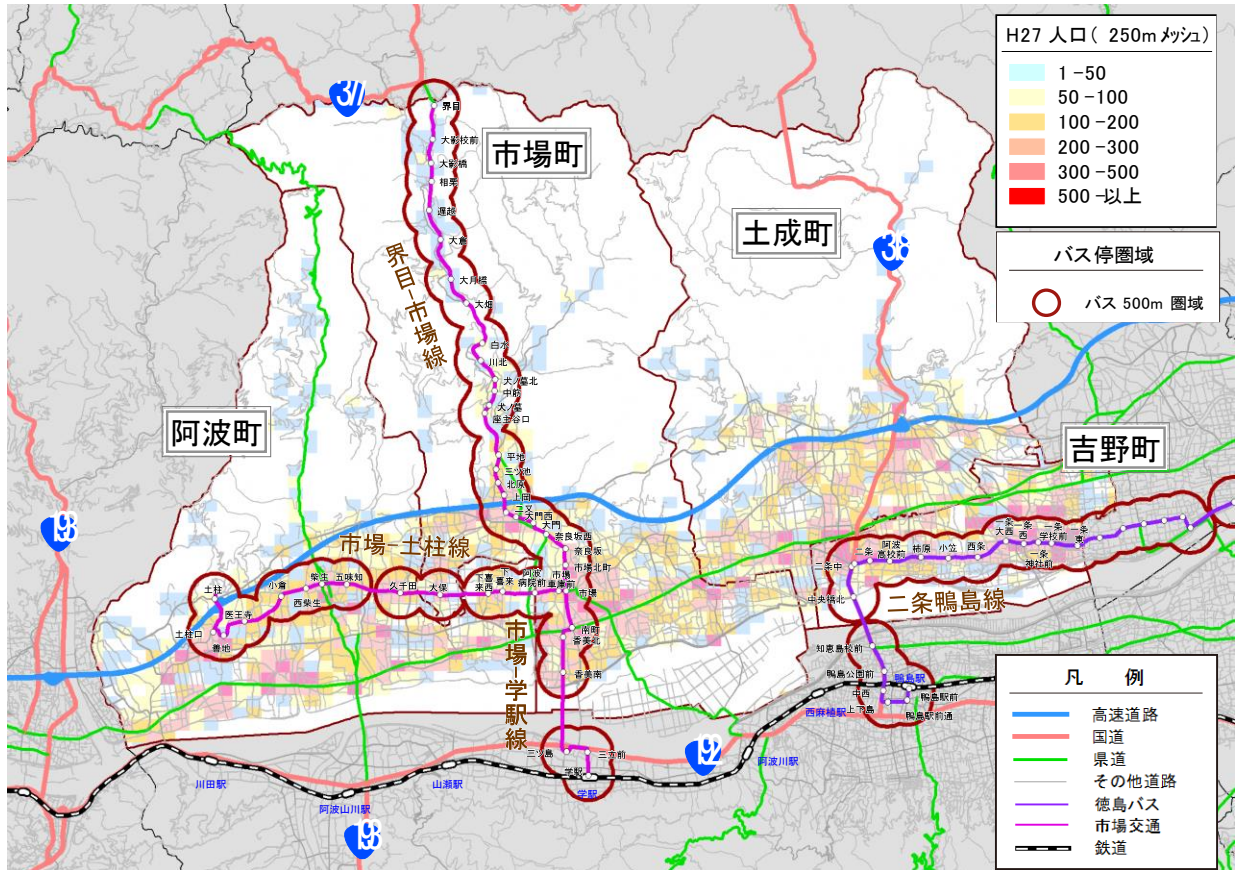


図 2-21 路線バスネットワークと空白地域

出典) ベース図：国土数値情報、バス：平成 23 年国土数値情報、人口：平成 27 年 国勢調査

表 2-3 公共交通空白地域人口と割合

	阿波市全域		公共交通空白地域	
面積	191.11 km ²	100%	165.67 km ²	86.7%
人口	37,202 人	100%	24,883 人	66.9%
うち、 老年人口	12,427 人	33%	8,288 人	33.3% (老年人口のうち 66.7%)

出典) 国土数値情報、平成 27 年 国勢調査

※公共交通空白地域人口・・・バス停から 500m 圏内に重心が含まれる 250mメッシュの平成 27 年国勢調査の人口を公共交通カバー人口とし、平成 27 年国勢調査の阿波市の合計人口から公共交通カバー人口を引いたものを公共交通空白地域人口とした。

注) 「人口」には、年齢不明数 (48 人) も含む。

2) 公共交通ネットワークと主な外出先となる施設の分布

- 病院、商業施設は鳴門池田線沿線に分布しており、路線バスのバス停 500m 圏域外の施設も多く存在している。これらの施設は路線バスでのアクセスは困難と考えられる。

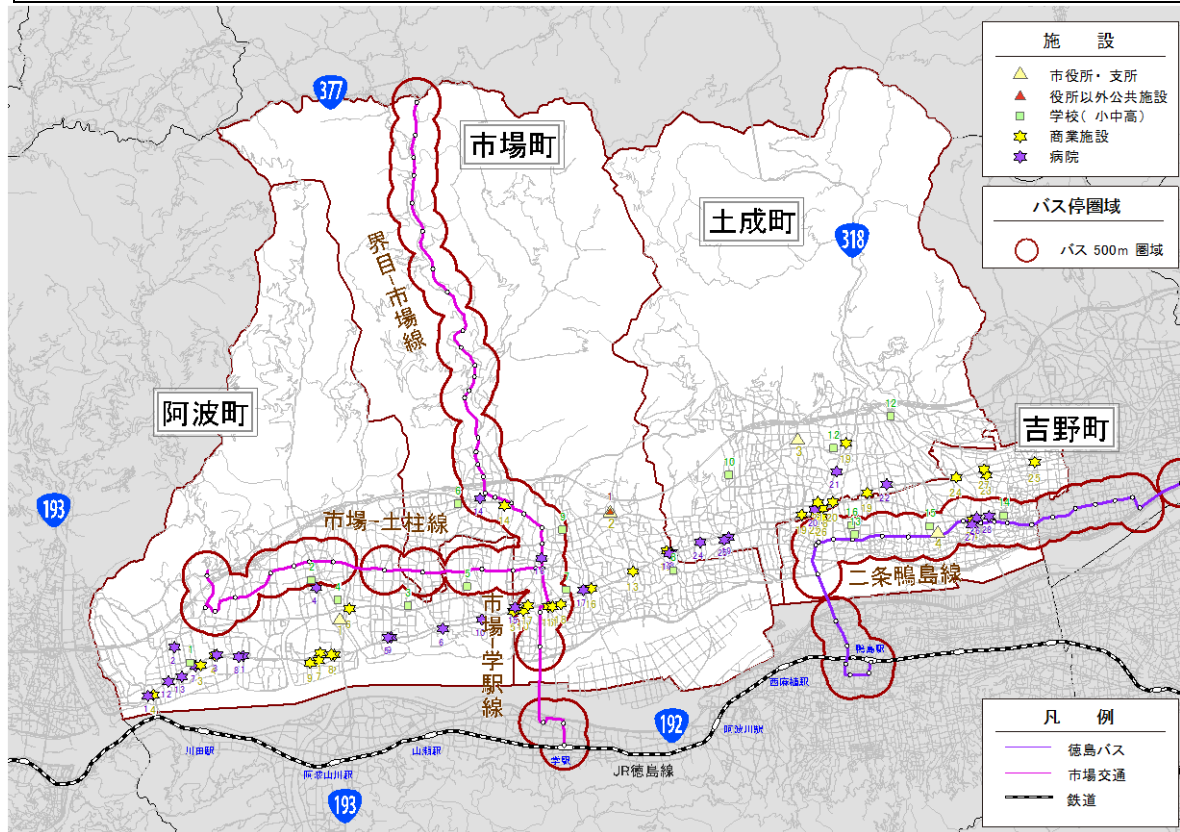


図 2-22 路線バスネットワークと主な外出先となる施設の分布

出典) ベース図・施設：国土数値情報、バス：平成 23 年国土数値情報

表 2-4 阿波市内の主な外出先となる施設数と路線バスのカバー率

施設分類		公共交通圏域内	阿波市内の主な外出先施設計	公共交通カバー率
商業施設	大型商業施設	4 件	6 件	67%
	商店	0 件	11 件	0%
	コンビニ	2 件	10 件	20%
	合計	6 件	27 件	22%
病院	合計	5 件	28 件	18%
公共施設	役所	1 件	4 件	25%
	学校	8 件	16 件	50%
	その他	0 件	1 件	0%
	合計	9 件	21 件	43%
計		20 件	76 件	26%

注)「大規模商業施設」は、売場面積 500 m²以上の商業施設をいう。

表 2-5 路線バスでカバーできている施設一覧

【徳島バス(株) カバー施設】

◆商業施設

NO	名称	所在
24	ファミリーマート(吉野町内)	吉野町

◆病院

NO	名称	所在
25	大久保医院	吉野町
26	福島歯科医院	

NO	名称	所在
27	大串医院	吉野町

◆公共施設

(役所)

NO	名称	所在
5	吉野支所	吉野町

(学校)

NO	名称	所在
13	柿原小学校	吉野町
14	一条小学校	

NO	名称	所在
15	吉野中学校	吉野町
16	阿波高等学校	

【(有)市場交通 カバー施設】

(商業施設)

NO	名称	所在
10	キョーエイ市場店	市場町
11	マルナカ市場店	

NO	名称	所在
15	ミニストップ(市場町内)	市場町
17	コスモス薬品(市場町内)	
18	コメリハード&グリーン市場店	

(病院)

NO	名称	所在
14	太田診療所	市場町

NO	名称	所在
16	近藤医院	市場町

◆公共施設

(学校)

NO	名称	所在
2	伊沢小学校	阿波町
5	阿波西高等学校	

NO	名称	所在
7	市場小学校	市場町
9	市場中学校	

3) 路線バスの状況

(1) 路線バスの運行状況

- 路線バスの運行本数は、市場－学駅、二条鴨島線が1日10便以上運行されているが、残り2路線は10便未満となっている。

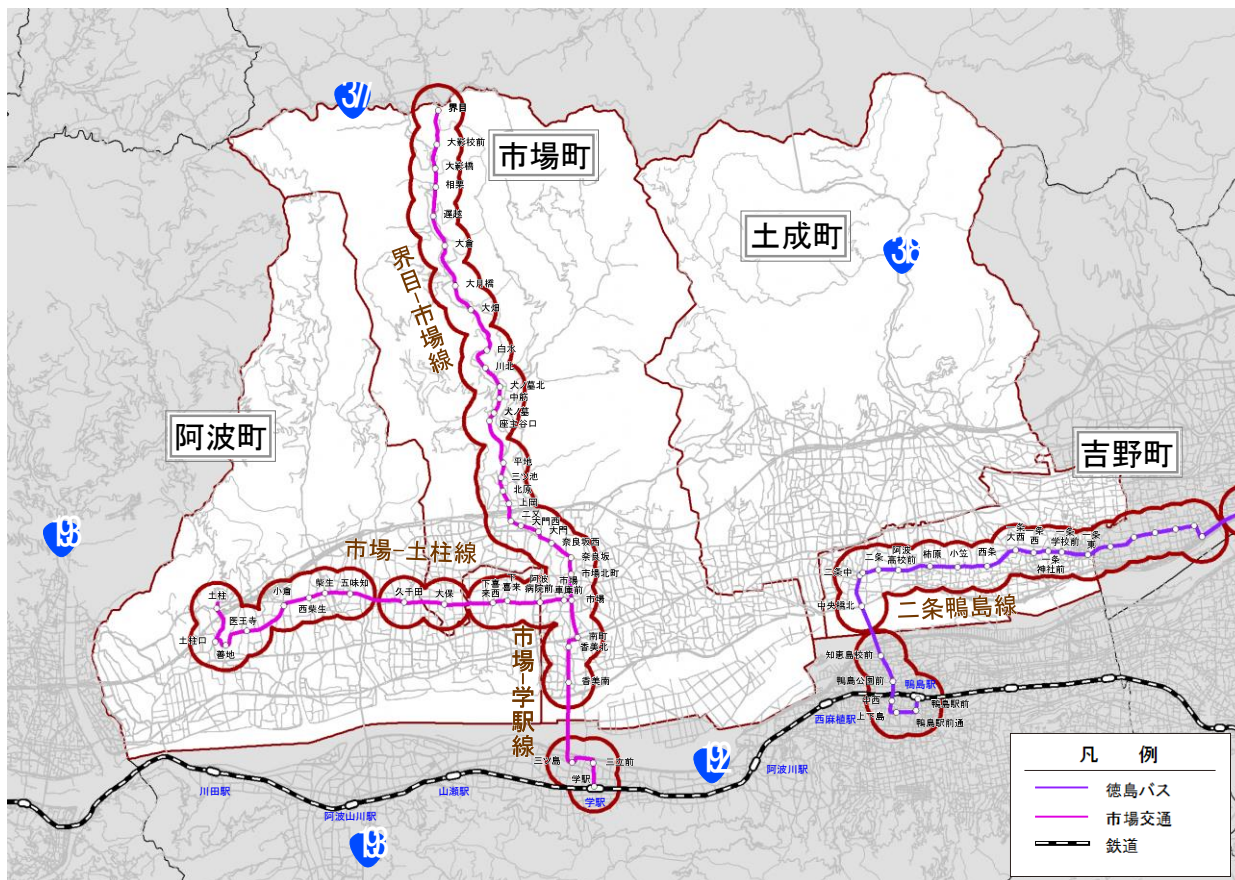


図 2-23 路線バスネットワーク

表 2-6 路線バスの運行便数と運賃

路線	運行便数 (1日あたり)		運賃	
	平日	土・日・祝日	最大金額	最小金額
二条鴨島線	6 便 (12 便)	4 便 (8 便)	一条東-鴨島駅 390 円	(一区間) 110 円
市場-学駅	8 便 (16 便)	8 便 (16 便)	市場-学駅 250 円	(一区間) 110 円
界目-市場線	4 便 (8 便)	4 便 (8 便)	界目-市場線 520 円	(一区間) 110 円
市場-土柱線	2 便 (4 便)	2 便 (4 便)	市場-土柱線 390 円	(一区間) 110 円
合計	20 便 (40 便)	18 便 (36 便)	-	-

注) 「運行便数」欄の数値は、以下の値を示す。

上段：片道の運行便数

(下段)：上下合計の運行便数

出典) 徳島バス(株)、(有)市場交通

(2) 路線バスの運行ダイヤ

- 徳島バスは、平日では1～3時間間隔で6便が運行されており、一定の利便性が確保されている。しかし、休日の運行便数は4便に過ぎず、また最終便の出発時刻は平日で18時前後、休日には16時（徳島駅前行き）となっており、概ね18時以降の移動には対応できていない状況にある。
- 市場交通では、平日では市場～学駅では1～2時間間隔で8便が運行されているものの、界目～市場では4便、市場～土柱では2便に過ぎない状況にある。最終便の出発時刻をみても、界目行きで市場発18時頃となっており、概ね18時以降の移動には対応できていない状況にある。

a) 徳島バス㈱

平日（二条鴨島線 徳島駅前発）

	1便	2便	3便	4便	5便	6便
徳島駅前	7:20	9:15	12:15	15:15	17:15	18:15
一条西	8:18	10:13	13:13	16:13	18:13	19:13
二条中	8:24	10:19	13:19	16:19	18:19	19:19
鴨島駅前	8:35	10:30	13:30	16:30	18:30	19:30

平日（二条鴨島線 鴨島駅前発）

	1便	2便	3便	4便	5便	6便
鴨島駅前	6:30	7:28	9:18	12:18	15:48	17:48
二条中	6:39	7:37	9:27	12:27	15:57	17:57
一条西	6:43	7:42	9:32	12:32	16:02	18:02
徳島駅前	7:44	8:44	10:34	13:34	17:04	19:04

土日（二条鴨島線 徳島駅前発）

	1便	2便	3便	4便
徳島駅前	9:15	12:15	15:15	18:15
一条西	10:13	13:13	16:13	19:13
二条中	10:19	13:19	16:19	19:19
鴨島駅前	10:30	13:30	16:30	19:30

土日（二条鴨島線 鴨島駅前発）

	1便	2便	3便	4便
鴨島駅前	7:30	9:18	12:18	16:18
二条中	7:39	9:27	12:27	16:27
一条西	7:43	9:32	12:32	16:32
徳島駅前	8:39	10:34	13:34	17:34

出典）徳島バス㈱（平成29年10月1日改正）

b) (有)市場交通

平日・土日（界目・土柱発）

	1 便	2 便	3 便	4 便	5 便	6 便	7 便	8 便
界目	7:22		9:25		13:00			17:05
二又	7:38		9:41		13:16			17:21
市場	7:44		9:47		13:22			17:27
土柱	▽		▽	11:02	▽		15:20	▽
市場	▽		▽	11:16	▽		15:34	▽
市場	7:45	8:13	9:48	11:17	13:23	14:20	15:35	17:28
学駅	7:57	8:25	10:00	11:29	13:35	14:32	15:47	17:40

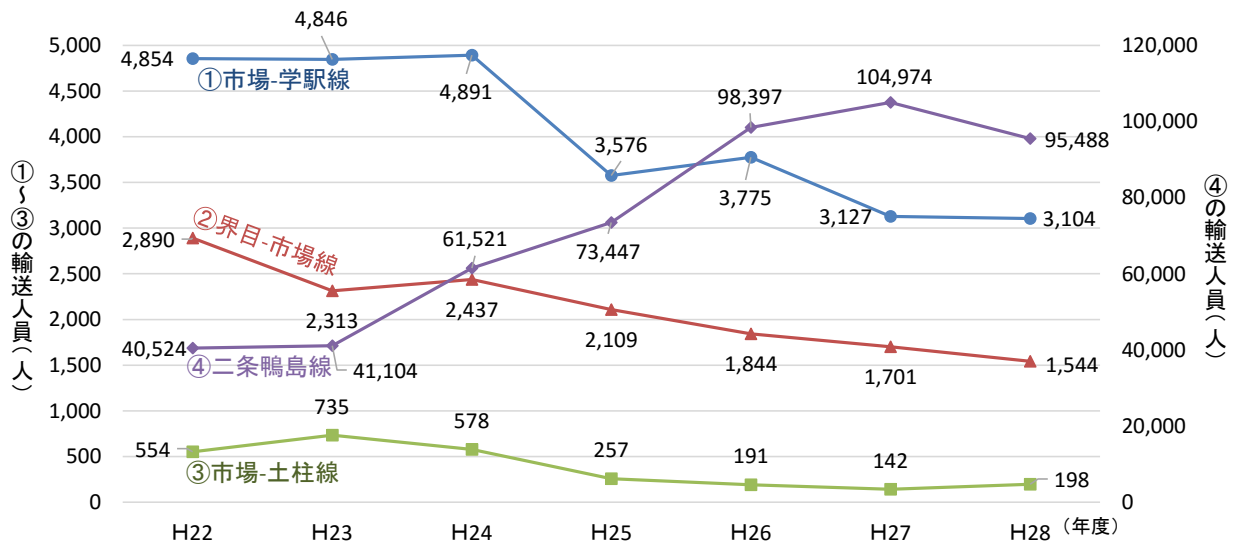
平日・土日（学駅発）

	1 便	2 便	3 便	4 便	5 便	6 便	7 便	8 便
学駅	8:00	8:35	10:34	11:40	14:07	14:45	16:05	17:50
市場	8:12	8:47	10:46	11:52 止	14:19	14:57	16:17	18:02
市場		▽	10:47	▽		14:58	▽	▽
土柱		▽	11:01	▽		15:12	▽	▽
市場		8:48		12:21 発			16:18	18:03
二又		8:54		12:22			16:24	18:09
界目		9:10		12:43			16:40	18:25

出典）(有)市場交通（平成 28 年 3 月 26 日改正）

(3) 路線バスの利用者数の推移

- 路線別にみると、④二条鴨島線は平成 27 年度まで増加傾向にあったが、平成 28 年度に減少に転じている。
- ①市場 - 学駅線、②界目 - 市場線は、人口の減少にともない減少傾向となっている。
- ③市場 - 土柱線についても、人口の減少にともない平成 27 年度まで減少し続けていたが、平成 28 年度にはやや増加しており、利用者数の底打ちしたことも想定される。



注) 「④二条鴨島線」は、徳島駅前～鴨島駅前間の全輸送人員を示す。

図 2-24 路線別の利用者数の推移

出典) 徳島バス(株)、(有)市場交通

(4) 路線バスの補助額

- 運輸収支が悪化した路線バスへの補助額は、毎年 7 百万円前後となっている。

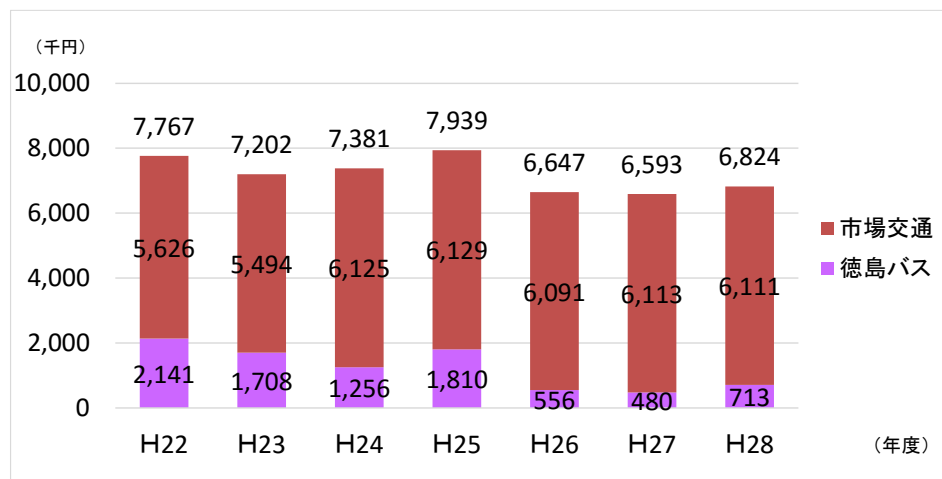


図 2-25 路線バスへの年度別補助額(徳島バス・市場交通)

出典) 徳島バス(株)、(有)市場交通

(5) 路線バスの利用状況

a) バス停別利用者数

- 阿波市とその周辺地域におけるバス停別利用者をみると、1日当たり5人以上（上下方向合計）の乗車があるバス停は、市外に位置する徳島バスの鴨島駅前のみとなっている。
- 阿波市内のバス停別利用者数を、徳島バスについてみると、徳島駅前行きでは二条中や一条東、鴨島駅前行きでは一条東や阿波高校前での利用が多く、ゆめタウン徳島への買物客、阿波高校の学生等の利用が想定される。
- 市場交通では、市場、学駅、南町、二又、大影校前での利用が多いものの、その他のバス停での利用はほとんどなく、全バス停（45箇所）の91%（41箇所）が1人未満の利用となっている。

i) 徳島バス(二条鴨島線)

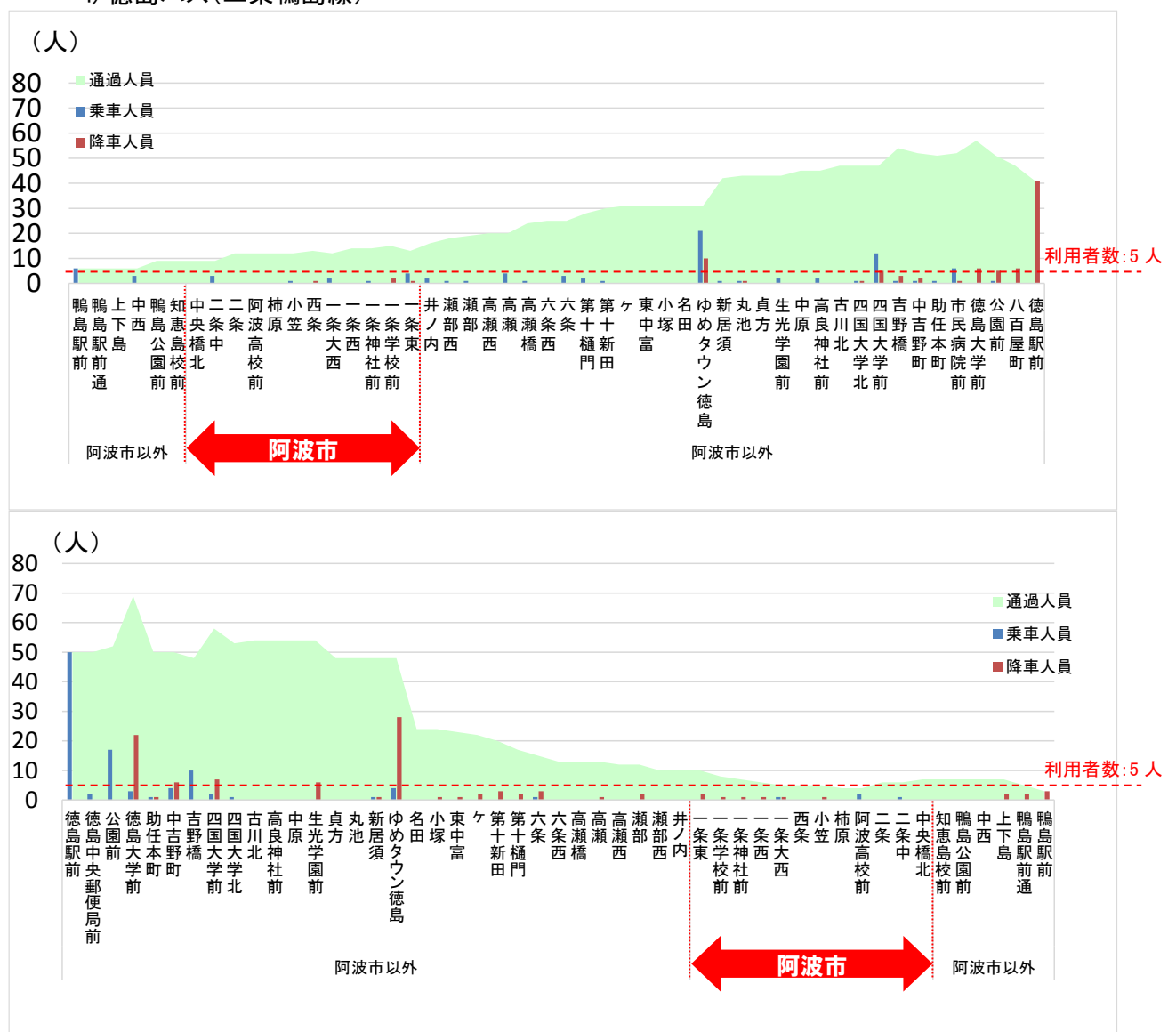


図 2-26 バス停別利用者数(上下線)

注) 便ごとに平成28年9月の平日1日をそれぞれランダムに抽出し、観測したものであり、同一日における観測結果を示したものではない。

※調査日) 平成28年9月
出典) 徳島バス(株)

ii) 市場交通

ア. 市場-学駅線

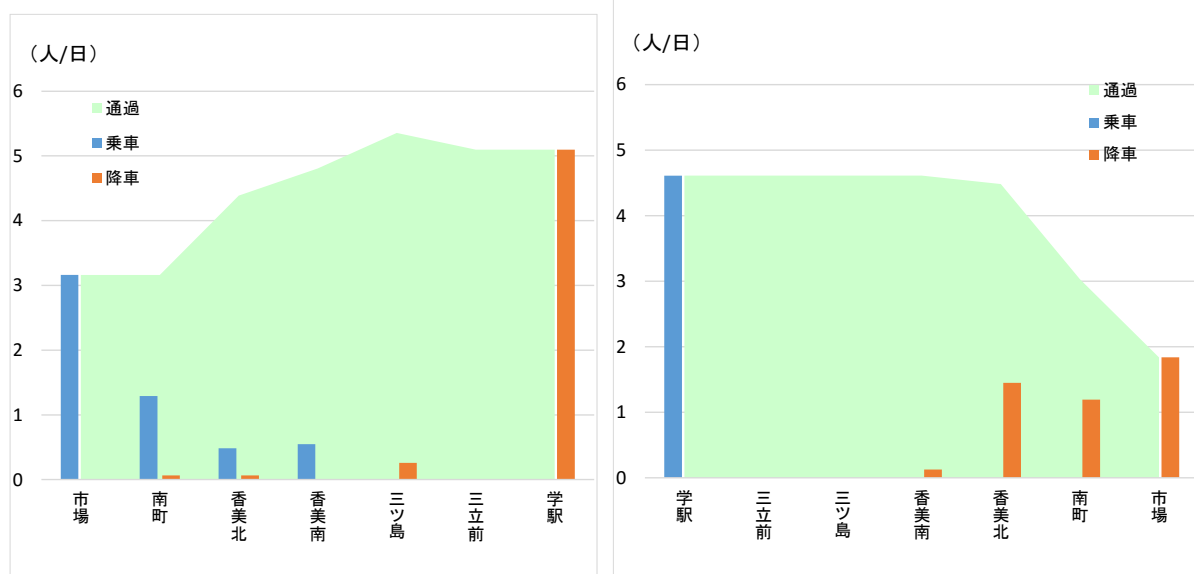


図 2-27 バス停別利用者数(上下線)

イ. 界目-市場線

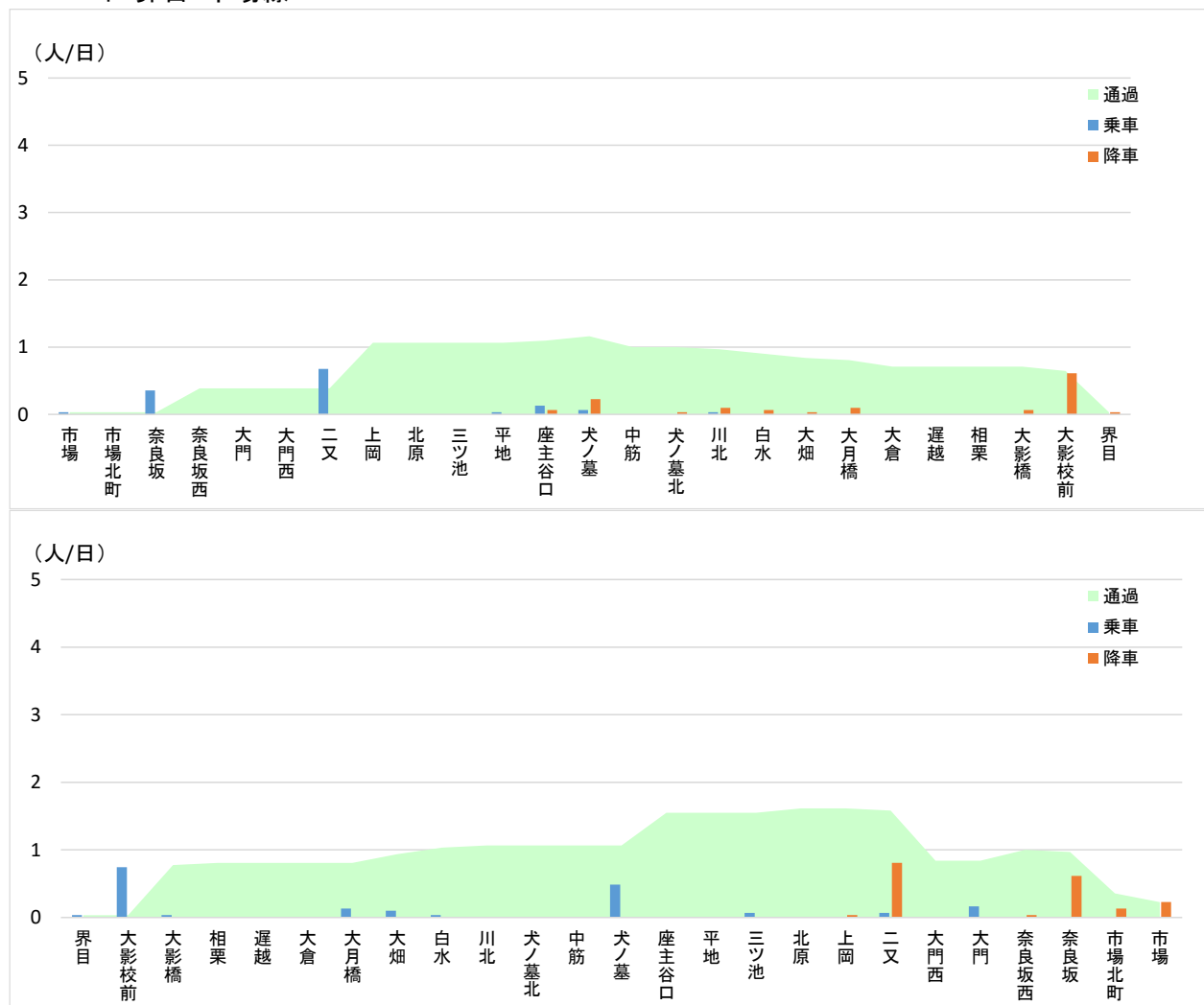


図 2-28 バス停別利用者数(上下線)

※調査日) 平成 22 年 10 月 1 日～10 月 31 日 (1 ヶ月の総利用者数から 1 日平均を算出)

出典) 市場交通(株)

ウ. 市場-土柱線

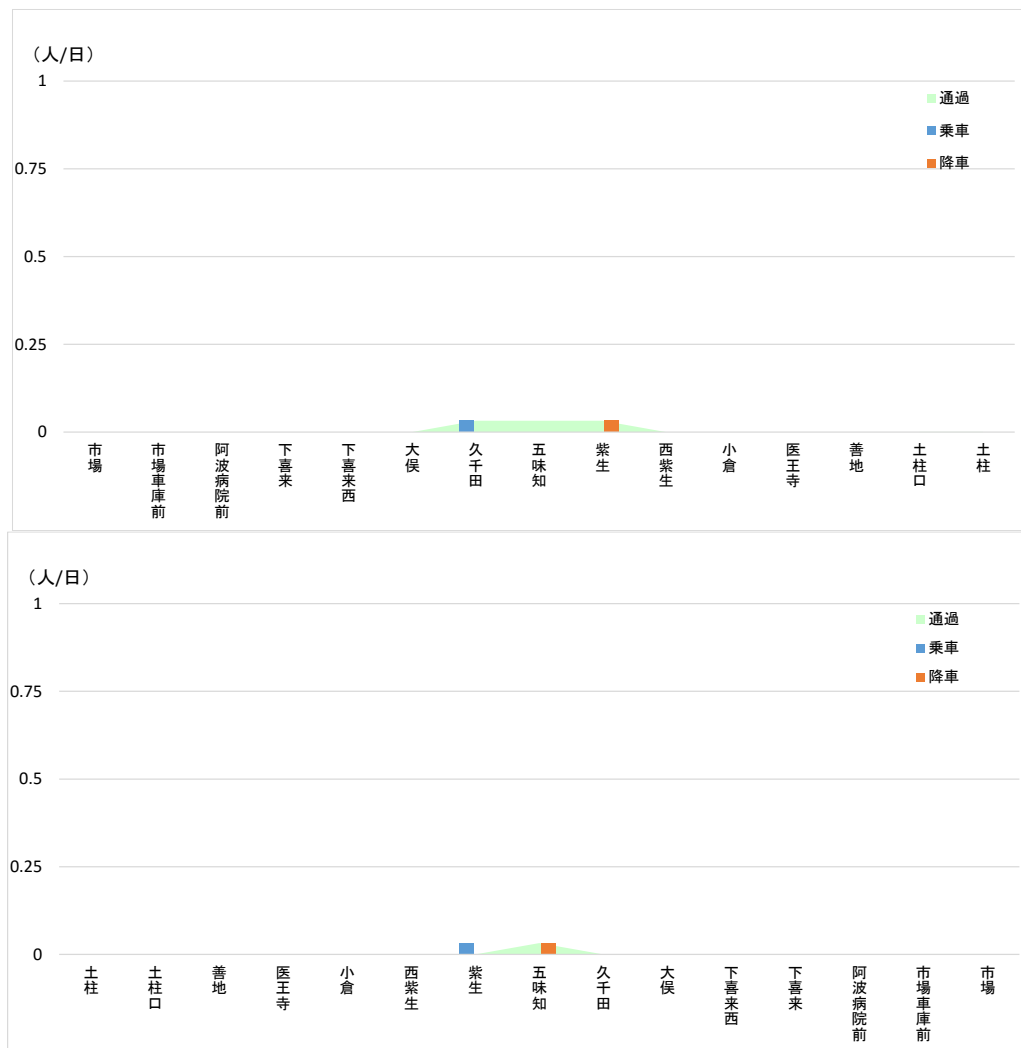


図 2-29 バス停別利用者数(上下線)

※調査日) 平成 22 年 10 月 1 日～10 月 31 日 (1 ヶ月の総利用者数から 1 日平均を算出)

出典) 市場交通(株)

b) バス停間利用者数

- 阿波市とその周辺地域におけるバス停間の利用者数をみると、徳島バスでは、鴨島駅前、鴨島公園前、二条中～一条学校前、一条学校前～徳島市方面への利用が多く（1～5 人）なっている。
- 市場交通では、学駅～市場、南町間の利用が多い（1～5 人）ほか、大影校前～奈良坂の利用も認められる（0.5～1 人）。

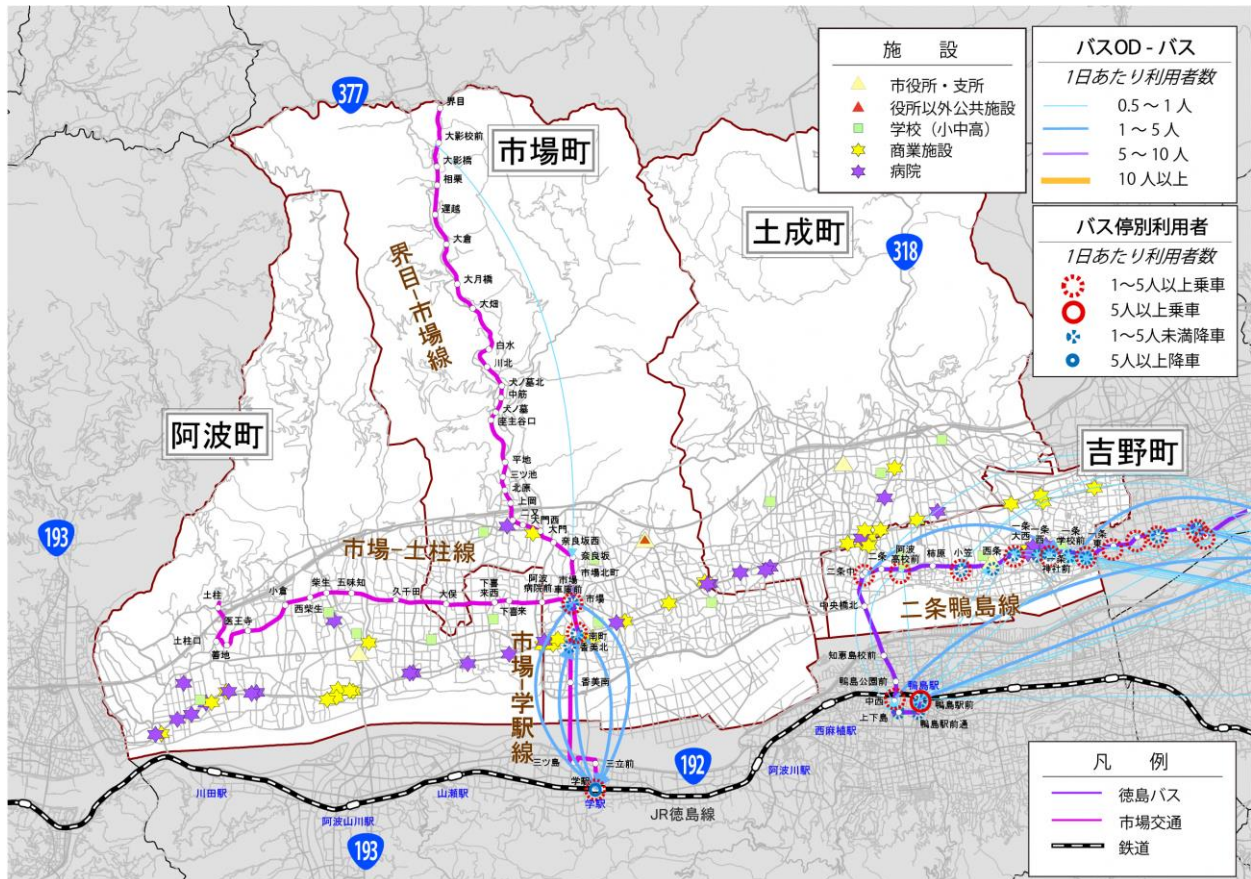


図 2-30 バス停間利用者数

出典）徳島バス㈱、㈲市場交通

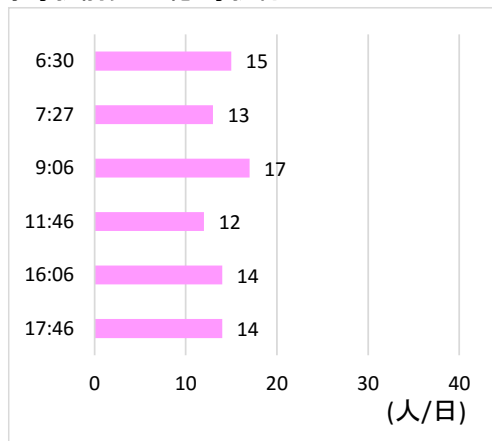
c) 便別利用者数

- 徳島バスの便別利用状況をみると、徳島駅前発 7 時台の利用が最も多く（33 人）、次いで 15 時台（22 人）となっているのに対し、鴨島駅前発では、便による顕著な差異は認められない。
- 徳島バスの便別利用状況を、阿波市内についてみると、徳島駅行きでは、9 時台が最も多く（5 人）、次いで 6 時台、17 時台（いずれも 3 人）となっている。一方、鴨島駅前行きでは、7 時台、18 時台がやや多く（いずれも 3 人）、朝・夕の利用が多い傾向にあるといえる。
- 市場交通についてみると、市場-学駅線では、市場発 7 時台や 9 時台の利用が多く（例えば金曜日：4～5 人）、木曜日に限り 13 時台の利用が顕著に多く（4 人）になっているのに対し、学駅発では 16 時台の利用が多く（例えば水曜日：3 人）になっている。また、界目-市場線では、市場発 12 時台や 16 時台、界目発 7 時台、9 時台の利用が多く、その他の時間帯での利用は顕著に少なくなっている。

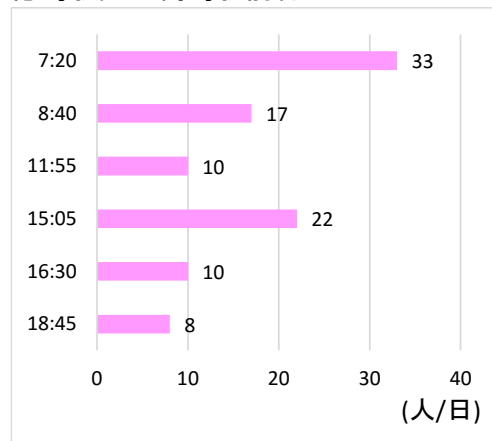
i) 徳島バス(二条鴨島線)

【二条鴨島線全線】

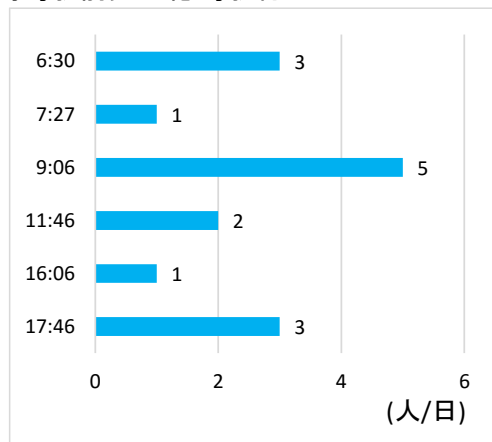
＜鴨島駅前発⇒徳島駅行き＞



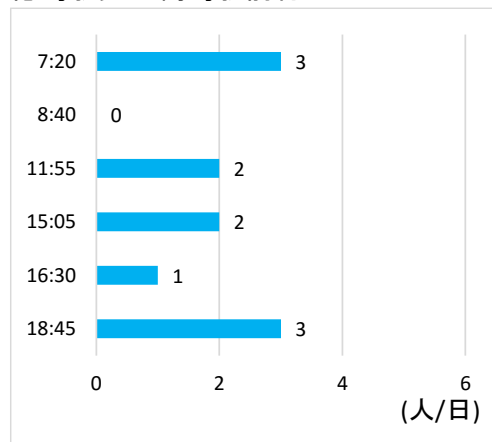
＜徳島駅発⇒鴨島駅前行き＞



＜鴨島駅前発⇒徳島駅行き＞



＜徳島駅発⇒鴨島駅前行き＞



注) 各便の利用者数は、便ごとに平成 28 年 9 月の平日 1 日をそれぞれランダムに抽出し、観測したものであり、同一日における観測結果を示したものではない。

図 2-31 便別利用状況(徳島バス、阿波市内のみ)

※調査日) 平成 28 年 9 月
出典) 徳島バス(株)

ii) 市場交通

ア. 市場-学駅線

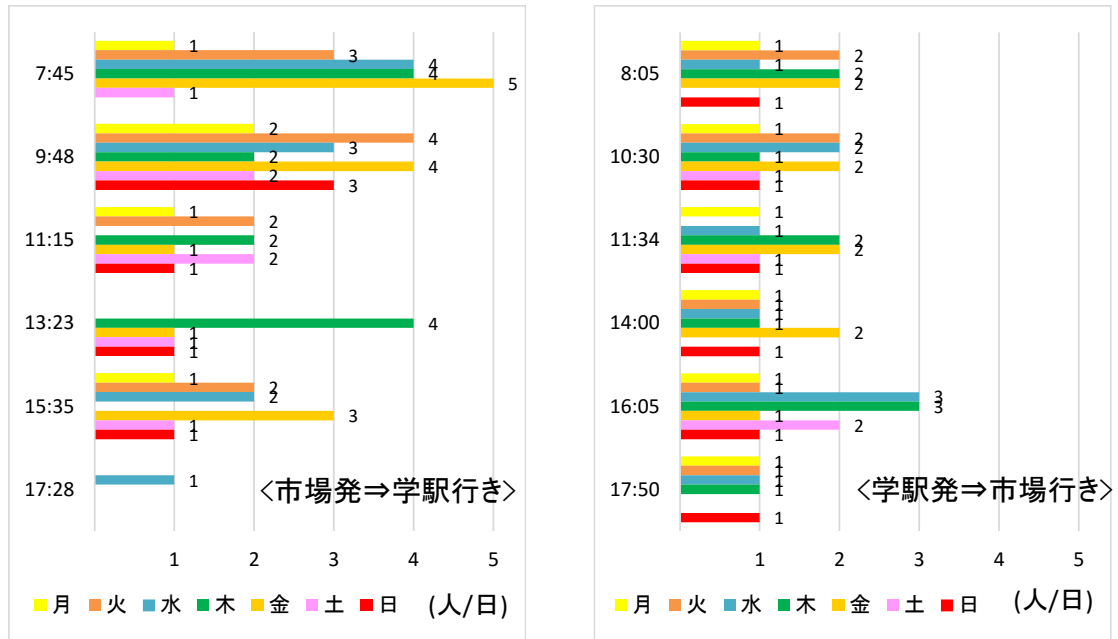


図 2-32 便別利用者数(市場-学駅線)

イ. 界目-市場線

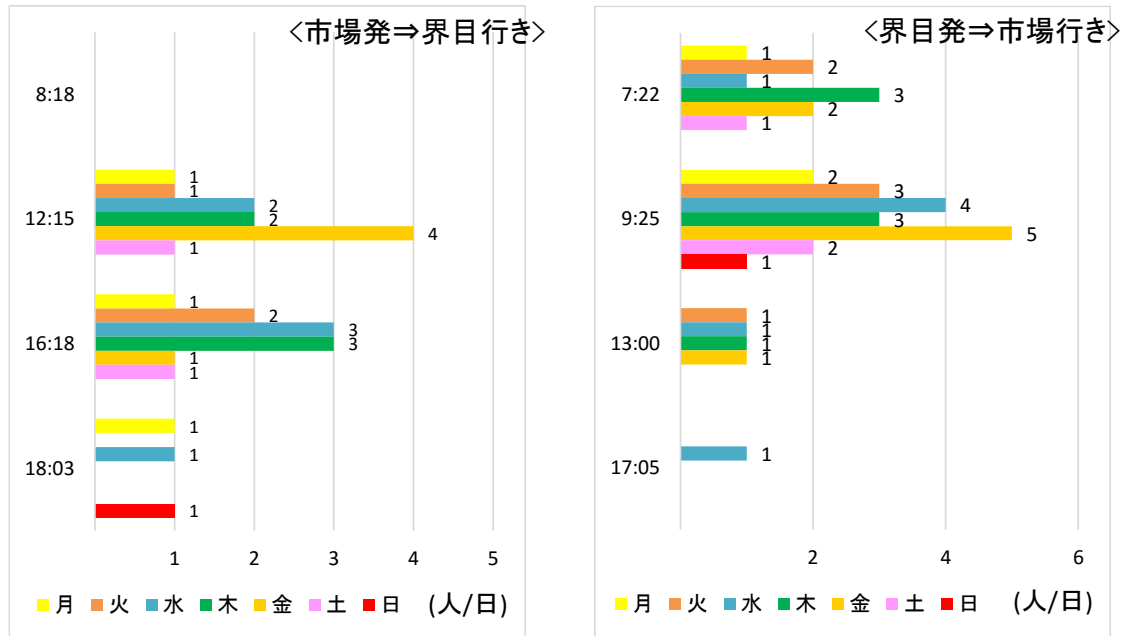


図 2-33 便別利用者数(界目-市場線)

ウ. 市場-土柱線

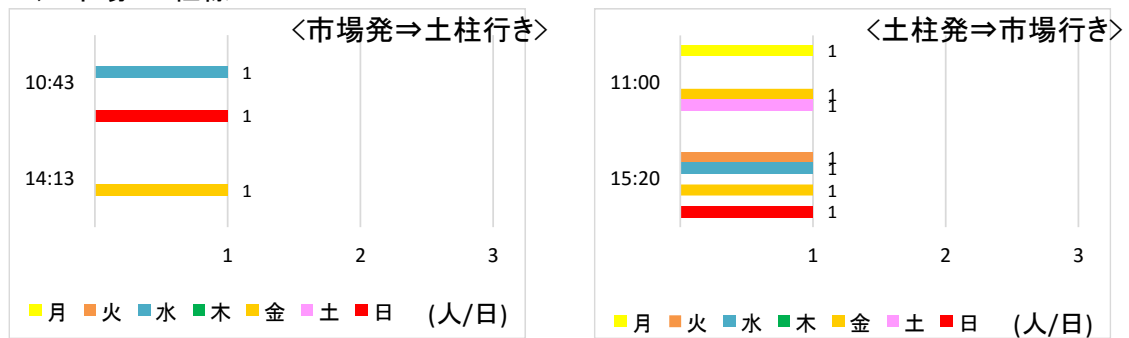


図 2-34 便別利用者数(市場-土柱線)

※調査日) 平成 22 年 10 月 1 日～10 月 31 日 (1 ヶ月の総利用者数から 1 日平均を算出) 出典) 市場交通株式会社

4) タクシーの運行状況

- 阿波市内には西部交通圏と鳴門交通圏の2つのタクシー営業圏があり、西部交通圏はタクシー事業者が4社存在しているが、鳴門交通圏はタクシー事業者が1社しか存在していない状況である。

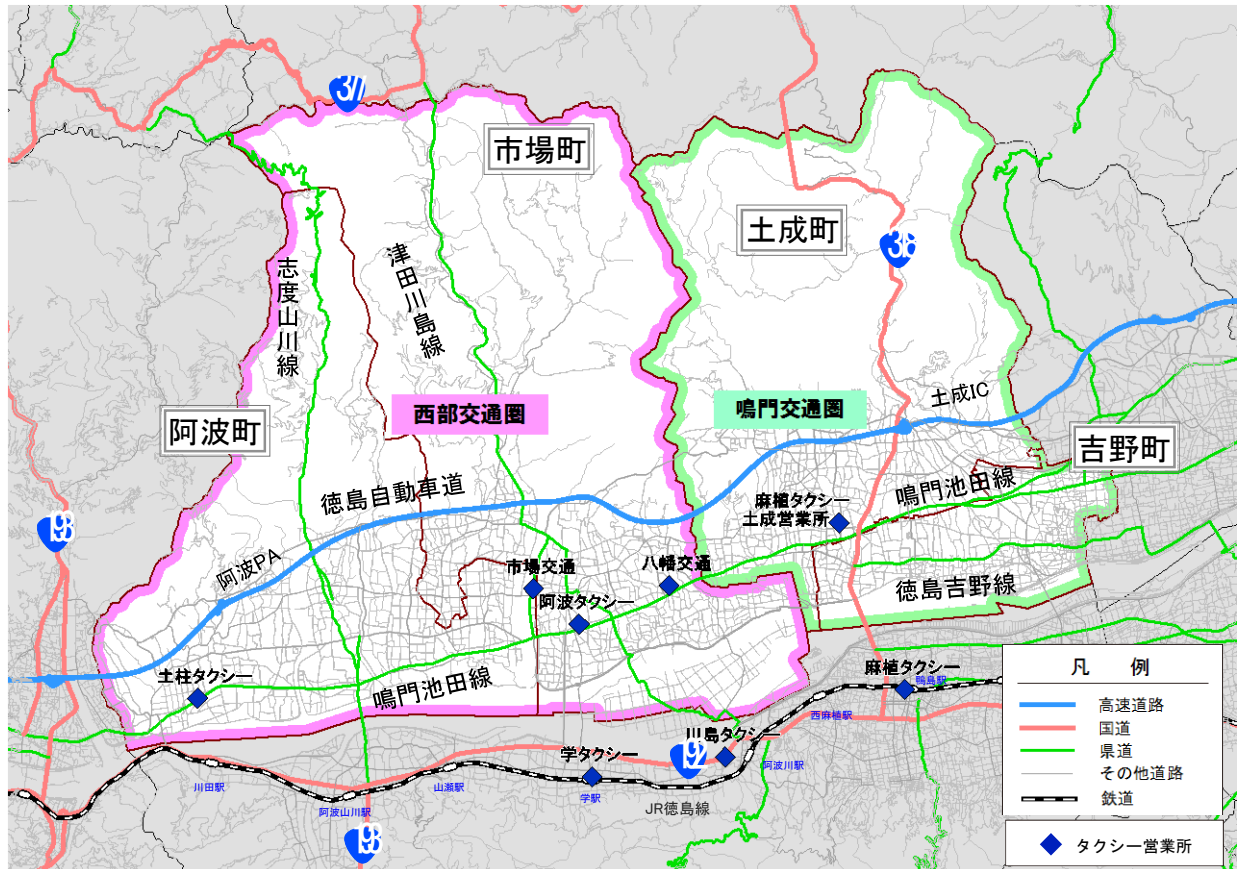


図 2-35 阿波市周辺のタクシー営業所

表 2-7 阿波市内のタクシー営業所一覧

交通圏	該当地域	市内の会社	所在地	保有台数
西部交通圏	市場町、阿波町	土柱タクシー	阿波市阿波町南整理144番地2	7台
		阿波タクシー	阿波市市場町市場字町筋385番地2	4台
		八幡交通	阿波市市場町切幡字池ノ本200番地5	6台
		市場交通	阿波市市場町市場字岸ノ下303番地	2台
鳴門交通圏	吉野町、土成町	麻植タクシー 土成営業所	阿波市土成町土成字南原81-7	3台

出典) 国土数値情報、iタウンページHP

5) スクールバスの運行

- 阿波市には 10 校の市立小学校があり、そのうち 2 校（伊沢小学校，大俣小学校）がスクールバスを運行しており、伊沢谷方面と東谷・西谷方面の生徒の登校に利用されている。
- いずれのバスについても、乗車定員に対する輸送人数の割合（占有率）は 50%を下回っており、特に占有率の低い伊沢小学校で 23 席、大俣小学校（西谷線（大影））でも 24 席が空席のまま運行されている。

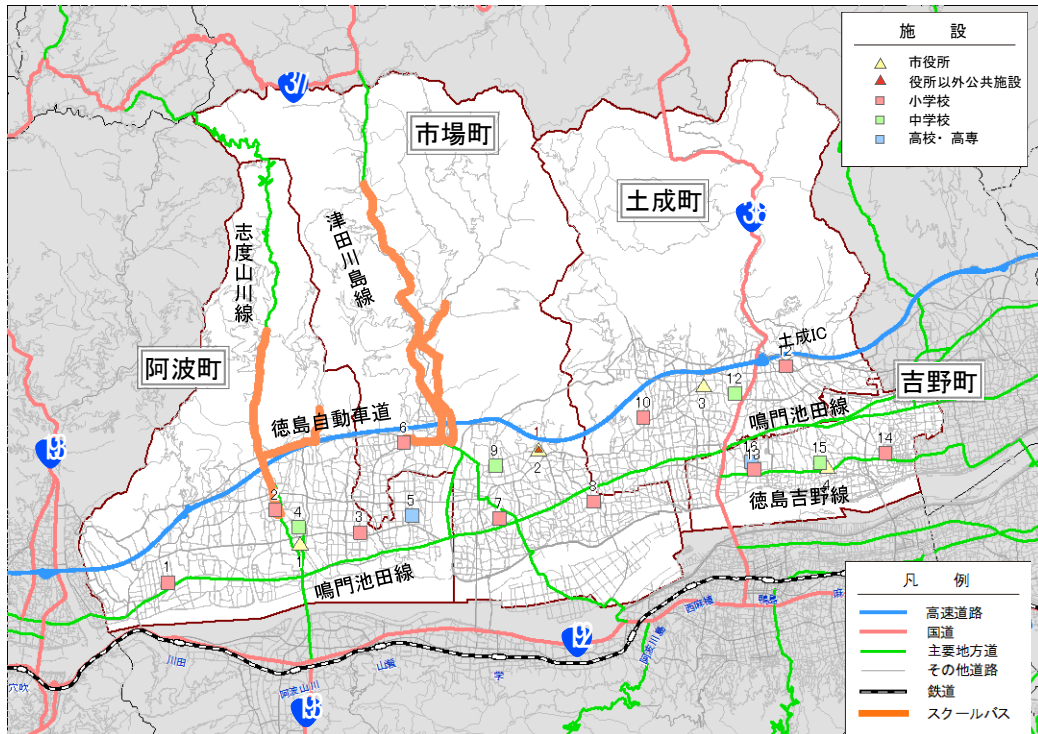


図 2-36 阿波市内のスクールバスの運行状況

出典）ベース：国土数値情報、スクールバス路線図：阿波市提供資料

◆役所

NO	名称	所在
1	阿波支所	阿波町
2	阿波市役所	市場町

NO	名称	所在
3	土成支所	土成町
4	吉野支所	吉野町

◆学校

NO	名称	所在
1	林小学校	阿波町
2	伊沢小学校	
3	久勝小学校	
4	阿波中学校	
5	阿波西高等学校	
6	大俣小学校	市場町
7	市場小学校	
8	八幡小学校	
9	市場中学校	

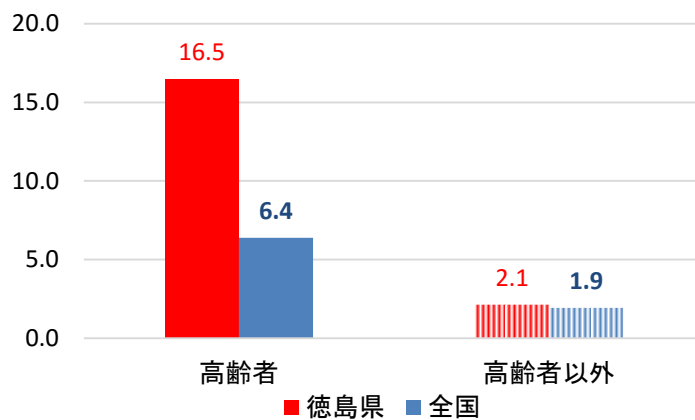
NO	名称	所在
10	土成小学校	土成町
11	御所小学校	
12	土成中学校	
13	柿原小学校	吉野町
14	一条小学校	
15	吉野中学校	
16	阿波高等学校	

表 2-8 スクールバスの概要(平成 28 年)

学校名	スクールバス路線	乗車定員(片道) (人)	輸送人員(片道) (人)	占有率	空き座席
伊沢小学校	—	26	3	11.5%	23 席
大俣小学校	西谷線(大影)	34	10	29.4%	24 席
	東谷線(奥日開谷)	15	6	40.0%	9 席

6) 交通事故の発生状況

徳島県における交通事故の発生状況を全国と比較すると、高齢者以外では全国値と概ね等しいものの、高齢者では全国値（6.4 人／人口 10 万人）の約 2.5 倍（16.5 人／人口 10 万人）と顕著に高くなっている。



資料：平成 28 年交通事故統計，平成 27 年国勢調査

図 2-37 徳島県における交通事故の発生状況（年齢階層別，全国値と比較）

7) 現状からみた課題の整理

阿波市における公共交通に関わる課題をまとめると、以下のように考えられる。

(1) 現状に基づく課題

a) 人口減少下での移動手段の確保

阿波市の人口は、平成 12 年以降、減少し続けており、平成 27 年には平成 12 年比で約 12% 減少している。(p2-3) これに比例し、路線バスの利用者数も加速度的に減少している状況にある(市場-学駅線の場合、平成 27 利用者数の対平成 22 年比減少率: 約 36%)。(p2-16)

また、総人口に占める 65 歳以上人口の割合は年々増加しており、今後も増加が予測されることから、交通弱者を含め、人口減少下における移動手段の確保を図っていく必要がある(p3-3)。

b) 市民の移動ニーズに合ったサービスの提供

商業施設や病院等の主な施設は鳴門池田線沿線に立地しており、市民は、これら施設を目的地として移動することが多くなっている。(p2-8, 3-8~9, 3-22~23)

しかし、路線バスが運行されていない地域が多く、公共交通カバー率は全体で 26% 程度となっている。これら市民の主な外出先である施設への移動手段を確保し、アクセス性の向上を図るなど、市民の移動ニーズに合ったサービスを提供する必要がある。(p2-11)

c) 交通空白地の対応

図 2-21 に示すように、阿波市では、広範囲に人口が分布しており、公共交通は一部地域にしか運行していない状況となっている。このような公共交通空白地の割合(人口ベース)は 67%にも及んでおり、これら地域における移動手段の確保が必要である。(p2-10)

(2) 社会的・地域的な課題

a) 高齢者、運転免許証返納者の安全な移動の確保

徳島県では、高齢者の交通事故の発生率が、全国平均の約 2.5 倍にもなっている。(p2-27)

今後、高齢者人口が増加していく状況をふまえ、公共交通の利便性を確保することにより、自動車利用から公共交通利用への転換を促し、交通事故の減少や高齢者の運転免許証返納等を図る必要がある。(p2-3)

b) 通学者の移動の確保

阿波市では、現在、2 つの市立小学校ではスクールバスが運行され、津田川島線および志度山川線の谷筋に立地する集落に居住する小学生の通学に利用されている。(p3-42, 3-43) 集落から学校までの距離は最長 9km 程度にもなることから、バス等の移動手段を確保し続ける必要がある。(p2-24)

c) 山間部における移動の確保

阿波市では谷筋にも集落が形成されているが、志度山川線沿線など、公共交通が運行されていない状況にある。また、山間部の勾配は市街地部に比べ急であり、歩行するにも負荷が大きくなるのが一般的である。さらに、居住者には高齢者も多いことから、これら地域における移動手段の確保が必要である。(p2-1)

d) 市外への簡便なアクセス

阿波市における通勤・通学の状況をみると、通勤、通学ともに、本市内々のみならず、吉野川市や徳島県北部（鳴門市等）、徳島県南部（徳島市等）等、近隣市町とも一定の流動が認められる。しかし、本市と近隣市町等の市外を乗り換えなしで連絡する公共交通は徳島バス（二条鴨島線）しかなく、JR 徳島線を利用する場合には鴨島駅や学駅での乗り換えが必要であるが、運行の時間帯や待ち時間、運行本数やバス停数等、時間的・物理的障害が市内外交通の支障となっていることが推測され、市外へのアクセス性向上が必要である。

e) 新たな交通手段の検討

阿波市では、路線バスの運行維持のため、毎年7百万円程度の補助が行われている。阿波市における公共交通の維持・確保に向けては、利用に見合った公共交通サービスへのサービス内容の見直しや、タクシーやスクールバス等の既存交通との役割分担、さらには新たな公共交通の導入可能性を含め、公共交通運営の効率化を図り、持続可能な公共交通を構築する必要がある。(p2-16)